

平成30年度助成決定申請一覧表

A. 博物館学芸員等の内外研修に対する助成

応募:5件 決定:5件

(敬称略)

番号	氏名	所属機関	研修テーマ	研修施設名
				研修期間
1	安岡 真理	静岡市美術館	<p>『自主企画展「絵本のレシポートムボックスの絵本原画展(仮称)」のための事前作品調査及びこれらの絵本表現に関する調査研究』</p> <p>日本の絵本表現に多大な影響を与えた絵本編集者・土井章史氏の編集した絵本原画を網羅的に調査し、作家への聞き取りを行い、絵本史におけるこれらの表現の特徴や位置づけを明らかにする。その成果を展覧会で紹介する。</p>	<p>トムボックス(武蔵野市)</p> <p>5/1～3/31</p>
2	姉崎 智子	群馬県立自然史博物館	<p>『ヨーロッパの自然史系博物館における施設・展示更新と構成員の意識改革について』</p> <p>博物館が求められる役割と機能の社会的変化への対応として、どのような理念のもと博物館施設と展示を更新し構成員の意識改革を行うのか、自然史系博物館が抱える課題解決の方策と生存戦略について調査を行う。</p>	<p>フランス国立自然史博物館他</p> <p>1/21～31</p>
3	鈴木 崇宣	独立行政法人国立科学博物館	<p>『ヨーロッパの博物館における巡回展示の企画立案及び運用について』</p> <p>主にヨーロッパで展開している巡回展示の実態を調査し、その企画立案や運用の手法、課題を整理し、所属館をはじめ国内の博物館で活かせるような知見・知識を得、巡回展示の開発、活性化を図る一助としたい。</p>	<p>大英自然史博物館他</p> <p>10/9～18</p>
4	高橋 拓	飯豊町教育委員会社会教育課生涯学習振興室	<p>『ヨーロッパにおけるコロニアル考古学と窯業史についての調査研究』</p> <p>フランスのパリ第一大学、第四大学、セーブル陶磁美術館において、ヨーロッパにおけるコロニアル考古学の研究状況とかつての窯業技術の実態について学習し、広域な視点での窯業史研究に益する研修とする。</p>	<p>パリ第一大学他</p> <p>10/10～16</p>
5	田中 嘉寛	大阪市立自然史博物館	<p>『イルカの進化～日米産マイルカ科化石の形態比較から、進化を探る～』</p> <p>現代型のイルカである「マイルカ科」の起源を探るため、日米の中新世の初期のマイルカ科標本を比較し、系統解析を行う。得られた系統解析から、イルカの主役がいつマイルカ科に、どのグループとなぜ入れ替わったのか考える。</p>	<p>ロサンゼルス自然史博物館</p> <p>2/3～11</p>

B. 博物館に関する国際交流に対する助成

応募:1件 決定:1件

(敬称略)

番号	団体名	事業名等	実施場所
	代表者名		実施時期
1	全国科学博物館協議会	『平成30年度全国科学博物館協議会 海外科学系博物館視察研修』 加盟館園から参加者を募り視察団を組織し、海外の科学系博物館を視察調査し意見交換することにより、加盟館園の職員等の資質向上を図るとともに、職員同士の人的ネットワークを深め、博物館活動全体の活性化につなげることを目的とする。	北米(カナダ、アメリカ合衆国)の代表的な科学系博物館
	理事長 林 良博		1/14～24

C. 青少年の社会教育活動に対する助成

応募:47件 決定:27件

(敬称略)

分類 番号	団体名	事業名等	場所
	代表者名		実施時期
1	グループ杜	『留学生との懇談会』 国際間の相互理解を目的に、30年以上にわたり留学生の受け入れを支援、生活面での援助をしてきた。年間200人以上の留学生との交流パーティーなどを通し、国際交流に努めている。	東北大学国際交流会館
	代表 布川 洋子		4/14、5/13、10/13、11/10
2	岩手県ユネスコ協会 連盟	『平成30年度岩手県国際交流活動 研修会～第15回岩手県高校ユネスコ 研究大会～』 県内の高校生が、他校生との交流により国際交流や国際協力を推進するユネスコ精神や貧困・難民・平和などの今日的課題について学び、持続可能な社会の実現に向けた考え方や行動力を養うとともに、新たな自分の発見の場とする。	国立岩手山青少年交流の家
	会長 三田地 宣子		1/11～12
3	一般社団法人 宮城県子ども会 育成連合会	『平成30年度第45回東北地区 ジュニア・リーダー大会in青森』 東北各県、各地で活躍している中学生・高校生年齢相当のジュニア・リーダーが一堂に集い、ジュニア・リーダーの本来のあり方について研修し、資質向上を図るとともに、各々の地域で子供会活動の充実・振興に資する。	むつ市市北 自然の家
	会長 佐藤 眞紀子		8/10～12
5	認定特定非営利活動法人 斗南どんどこ健康村	『子どもふるさと体験学習プロジェクト ～ふるさとや家族を思う心を醸成し、若い力を 古里に～』 ふるさとのために活躍する人材育成に寄与することを目的に、子供たちに故郷の歴史文化や自然体験などを通して、故郷や家族がかけがえのないものと思う豊かな社会性を身につけ、故郷のために力を尽くす若い力を育成する。	斗南どんどこ健康村内他
	理事長 奈良 正義		4月～3月
6	特定非営利活動法人 盛岡YMCA	『宮古を愛する子どもたちの育成事業』 サッカー、野外活動などのプログラムを通して、自然に親しみ、体を動かす喜びを体験する。専門的な訓練を積んだ大学生ボランティアとの交流を通して、他者を思いやるこころを育み、宮古の未来を担う青少年を育成する。	①サッカースクール: 宮古小学校他 ②野外活動クラブ: 陸中海岸青少年 自然の家他
	理事長 魚住 英昭		①4月～3月 ②5月～2月
7	うるま市民芸術劇場附属 うるま市ジュニアオーケストラ	『うるま市ジュニアオーケストラ 第7回クリスマスコンサート』 青少年の健全育成と広く市民に親しまれるオーケストラを目指し、クリスマスコンサートを自主企画。市内演奏家や小中学校、各団体との共演を通して、地域の活性化と音楽文化の向上に寄与できるコンサートとして継続していきたい。	うるま市民芸術劇場 響ホール
	団長 上間 順一		12/23
10	ヒロシマ「」継ぐ展 実行委員会	『第三世代が考えるヒロシマ「」継ぐ展 2018 AT仙台』 小学生や親子連れを対象とした夏休み自由研究サポート教室をはじめ、被爆者や伝承者との対話イベントを通して、企画展の参加者がヒロシマをきっかけに、戦争や平和について考える平和学習の場所づくりを目的とする。	せんだいメディアテーク
	代表 久保田 涼子		8/10～15

分類 番号	団体名	事業名等	場所
	代表者名		実施時期
11	劇団虹	『山口県周防大島公演』 文化的活動に必要とされる物資が揃いにくい環境の中で育つ子供たちのもとに体験型ミュージカルを届けることで、文化的活動を身近に感じてもらい、その環境の中でも文化的活動に挑戦するきっかけを提供することを目的とする。	周防大島内の小・中学校 4～5箇所
	代表 石原 董		11月下旬
12	公益財団法人 登米文化振興財団	『登米文化振興財団設立25周年記念 劇団ドリーム☆キッズ 第16回ミュージカル公演』 小学生～高校生が中心となるミュージカル公演。団員たちの芸術性や表現力を養い、社会性や協調性も身に付けてもらうことが狙いである。また、公演を実施することで、市民の芸術的素養を高め、地域に本格的な舞台芸術を根付かせる。	登米祝祭劇場
	理事長 佐藤 信男		9/8～9
13	特定非営利活動法人 スペース・アンド・タイム・ クリエーション	新たな枠組みでも伝統を繋ぐ東北魂 『①第7回コンクリートカヌー東日本大会 ②第24回土木系学生による コンクリートカヌー大会』 これから社会に巣立つ学生に、個の力では届かないことでもチームワークを大切にし、他を認め切磋琢磨することで目標に近づくことが出来ることを実体験してもらう。勝つこと、負けることの中での感動を大切に出来る人材育成を図る。	①グリバーさがえ (寒河江市) ②埼玉県戸田市 荒川調整池(彩湖)
	理事長 佐藤 政人		①8/4～5 ②8/25
14	公益財団法人 札幌市芸術文化財団	『北海道ジャズの種プロジェクト 大オーケストラ公演』 道内5地域のジャズスクール合同の100名を超えるオーケストラを編成し、世界的なミュージシャンによる約半年間のワークショップを行い、新しくオープンする劇場で成果発表コンサートを開催する。	①ワークショップ: 道内5地域 ②コンサート:札幌文 化芸術劇場
	代表理事副理事長 橋本 道政		①9月～12月 ②2/3
17	国立大学法人 山形大学学術研究院 大学院理工学研究科	『モバイルキッズ・ケミラボ2018』 理科教育の振興と豊かな人格形成および人材育成を図るため、山形大学大学院理工学研究科教職員の有志と米沢市教育委員会の連携のもと、小中学生を対象とした理科実験教室や各種イベントでの出前実験教室を開催する。	米沢市理科研修セン ター、山形大学工学部他
	准教授 木島 龍朗		5月～12月
18	こどもミュージカル プロジェクト	『子どもの笑顔元気ミュージカル』 被災地の子供たちが自らの内面を表出する「表現活動」を行うことで心のケアをするとともに、プロの指導のもと、一つの舞台を協力して創り上げることでお互いを尊重し認め合い、ひいてはコミュニティの活性化・復興に寄与する力を育てる。	つばめの杜ひだまり ホール(山元町)
	委員長 佐藤 作智栄		2/23～24、 3/2～3
19	松島湾アマモ場 再生会議	『震災で失われたアマモ場再生と海から 遠のいた市民の心ケア活動』 東日本大震災によって失われた松島湾のアマモ場を再生し海洋環境を取り戻すために、アマモの移植等を実施する。また、震災によって海から離れてしまった市民の心を、海辺の体験イベントによって取り戻す。	松島湾
	会長 桑原 茂		5月～3月

分類 番号	団体名	事業名等	場所
	代表者名		実施時期
20	公益財団法人 仙台市市民文化事業団	『縄文のまつり復元と創造プロジェクト 「縄文人の記憶の宴」』 縄文時代の「まつり」を市民が中心となり、復元・創造する。まつりの舞台装置の草舟を、地域団体や市民と共に制作することで、縄文の森広場が地域の住民が集う中核的な施設となり、青少年の社会教育活動を支援することを目的とする。	仙台市縄文の森広場
	理事長 大越 裕光		6月～10月
21	公益財団法人 ふくしま科学振興協会	『～楽しく学んで科学を体験～ すかがわ・サイエンスフェスタ2018』 青少年が科学に直接触れ、興味・関心を高め、その楽しさを体感できる機会を一層拡充したい。身の周りにあるさまざまな科学的事象に焦点をあて、地域における企業や各種団体と連携して、「すかがわサイエンスフェスタ2018」を開催する。	ふくしま森の科学体験センター (ムシテックワールド)
	理事長 柳沼 直三		8/26
22	あすなる太鼓 「若獅子隊」	『復興への祈りを込めて「打ち囃す」 ～手作りの太鼓・芸能舞台を被災地へ～』 日頃から研鑽を積んでいる太鼓や踊り等の伝統芸能を活かした被災地の復興支援を、未来を生きる子供目線で創造する。現地での活動からしか得ることが出来ない復興の現状を、再現ライブで地元の仲間に伝えることで震災教育につなげる。	①陸前高田市気仙大工 伝承館他 ②栃木・高根沢町陽だまり 保育園
	代表 本田 泉		①7/28～30 ②8/25
23	北上機械鉄工業 協同組合	『ものづくり岩手っ子創出事業』 現在の日本では、高付加価値で低コストのものづくりが求められ、子供たちがものづくりを面白いと思う取り組みが必要である。このためにもものづくり体験イベントを定期的に行い、面白さを発信する子供たちを多く創出する地域としたい。	ハートパルクたかみ
	理事長 齊藤 一雄		10/6
24	せんだい伝統文化フェア 実行委員会	『第8回 城下町せんだい日本伝統文化フェア』 仙台市内で伝統文化に関する活動を行っている子供・親子教室19団体で構成する、せんだい伝統文化フェア実行委員会と仙台市教育委員会の共催で、伝統文化に触れ、親しみ、体験できる機会づくりとし、次世代の子供への伝統文化の継承と振興に寄与する。	せんだいメディアテーク
	会長 小野 智子		1/19
25	公益財団法人 名取市文化振興財団	『小学校アウトリーチ事業 Art for Kids @なとり わくわく楽しい音楽会』 名取の子供たちへ本物の音楽を届けることを目的として、小学校への音楽アウトリーチとホールでの演奏会を開催。学校で出会った演奏家とホールで再開する喜びと、わかりやすく楽しいクラシック音楽を体感し、感動を通して豊かな心を培う。	①アウトリーチコンサート: 名取市内の小学校11校 ②演奏会: 名取市文化会館
	理事長 三浦 亮一		①6/25～29 ②7/16
26	国立大学法人 宮城教育大学 理科教育講座	『スペースラボin仙台市天文台』 児童生徒が宇宙や天文の不思議の背景にある自然科学の規則性について学習し、科学への興味関心を向上させることを目的として、宮城教育大学理科教育講座と仙台市天文台のスタッフが共同で、宇宙に関する実験教室を計6回実施する。	仙台市天文台、 気仙沼市内
	教授 笠井 香代子		11月～12月

分類 番号	団体名	事業名等	場所
	代表者名		実施時期
28	一般社団法人 陸前高田青年会議所	『職業体験イベント(グッズオブ気仙) ～可能性は無限大！広げよう、将来の夢を～』 小学3～6年生を対象とした職業体験イベントを 開催し、子供たちの夢の実現の可能性を広げ、 地域の愛着形成や担い手育成の一助とすること を目的とする。また地域ぐるみで教育を行うこと により、心の復興に寄与する機会としたい。	夢アリーナたかた
	理事長 菅野 隼		8/12
32	特定非営利活動法人 子どもと文化のひろば ふれいおん・とかち	『表現するっておもしろい、Let's communication!! to R mansion「The Show」公演&表現ワークショップ』 昨今、人と人との関係性が薄れ、コミュニケーション 力が低下している。気鋭のパフォーマーによる 様々な手法で子供たちの鋭い感性に働きかけな がら、身体を使って自分を表現するスキルを学ぶ 機会を創る。	芽室町めむろ一ど・ 帯広市内
	理事長 今村 江穂		8/1～4
37	ゴントーズ高原 スポーツ少年団	『双葉郡のコミュニティー構築への 支援活動』 東日本大震災、原発災害により避難している被 災者への支援を行う。復興を目指し色々な取り 組みをしており、その事によって次世代を担う健 全なからだと心を持った青少年の育成に繋げ る。事業は子供たちが主体で活動する。	京丹波町、いわき市
	代表 奥田 健次		7月～8月、11月
40	芝浦工業大学 地域連携・ 生涯学習センター	『少年少女ロボットセミナーin仙台 2018』 大学生の支援のもと、小中学生にロボットづくり を通してモノづくりの楽しさを実感させる。この体験 を通して、子供たちが先々科学分野へ進むきつ かけをつくることで、我が国の科学技術を担う人 材育成に寄与する。	東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス
	センター長 小野 直樹		9/8～9
42	ヤングコンポーザー コンサートin東北 実行委員会	『ヤングコンポーザーコンサートin東北2018』 東北在住・出身の青少年が、作曲を通してプロ の演奏家、地域の作曲家や聴衆との交流を図 る。音楽創作を演奏面と強く結びつけ、バランス がとれた豊かな音楽体験を提供することにより、 東北の音楽文化を育み、地域の活性化に寄与 する。	①(リハーサル) ヤマハミュージック仙台店
	代表 小山 和彦		②(本番)名取市文化会 館 ①8/18 ②8/19
45	特定非営利活動法人 キンダーフィルム フェスト・きょうと	『第24回京都国際子ども映画祭』 多種多様な映画を鑑賞することで、映画の多面 的な魅力や様々な国の文化や慣習を子供たち に知ってもらうだけでなく、国内外の映画関係者 と交流することで、映画について学んだり国際交 流することによって子供たちが成長していくこと を目的とする。	京都文化博物館
	理事長 蘆田 真由		8/2～5

D. 文化及び芸術等の振興に対する助成

応募:46件 決定:24件

(敬称略)

分類 番号	団体名	事業名等	場所
	代表者名		実施時期
1	N-ovalビル音楽サロン	『N-ovalビル音楽サロン monthly concert-Monday afternoon-』 クラシック音楽の啓蒙、情操教育活動をとおり、楽しい音楽の世界の素晴らしさと心のゆとりを感じてもらうため、毎月N-ovalビルでオペラ・ピアノ等演奏会を、楽都仙台の一助となるよう開催する。	N-ovalビル一階 オープンスペース
	代表 野口正一		毎月1～2回
2	バッハホール管弦楽団 (加美町市民オーケストラ)	『バッハホール管弦楽団 ニューイヤーコンサート2019』 本地域で演奏活動を行っているアマチュアを募集し、ホール付きのオーケストラが誕生した。本事業を通じて、音楽をもっと身近に感じてもらえるよう、演奏技術の向上と地域のコミュニティ能力を高めていく機会にしたい。	加美町中新田 バッハホール
	音楽監督 金澤 茂		1/20
3	ひがしまつしま サンフラワー	『第六回復興支援ふれあい大芸能祭』 市民の皆さんに、芸能の力により元気になってもらいたい思いで活動をしている。コミュニティの場として、心のケアの一助として、地域の高齢者を優先して開催している。地元貢献のボランティア活動を目指している。	東松島市 コミュニティセンター
	代表 三浦 敦夫		10/7
4	一般社団法人 仙台オペラ協会	『2018仙台オペラ協会第43回公演 「修道女アンジェリカ/ カヴァレリア・ルスティカーナ」』 ヴェリズモ・オペラの傑作から、全一幕の二作品を上演する。キャストやスタッフにできるだけ多くの地元の人々を起用し、この魅力的な作品を上演することにより、オペラの普及と地域の音楽文化の振興に寄与する。	東京エレクトロン ホール宮城
	会長 藤崎 三郎助		9/1～2
7	東北大学学術資源 研究公開センター 植物園	『平成30年度東北大学植物園市民 公開講座-Schola Botanica 2018-』 学内外の一線の研究者を招き、一般向けの植物学およびその関連分野に関する講座を開講し、植物学の普及および地域の社会教育事業の一翼を担う。自然史講座「化石から辿る植物の進化・多様性」を全6回、植物画講座2回を企画。	東北大学 植物園講義室
	園長 牧 雅之		5月～11月 8回
8	みやぎ民話の会	『山形県新庄市の民話伝承者による語りの映像 記録および上映会』 百話以上の民話伝承者は今や東北でも数名で、記録を次世代に残すことは急を要する。文字記録では不可能な語り手の表情や、聞き手との対話により語りが深まる様子を映像で記録する。上映会を実施しこれからの民話の語りの在り方を探る。	①民話の語り手の映像 記録:新庄市・仙台市 ②映像の記録の上映会: 仙台周辺
	代表 島津 信子		①6月～12月 ②3月
9	特定非営利活動法人 アートアンド アーキテクトフェスタ	『U-35 Under35 Architects exhibition 2018 35歳以下の若手建築家による建築の 展覧会2018』 若手建築家の登竜門としての位置づけと、若く、まだ社会と繋がっていない建築家に発表の機会を与える場をつくるための発展的な文化活動として、次世代の建築家の姿勢を示す機会を目指す。	うめきたシップホール (大阪市)
	代表理事 平沼 孝啓		10/19～29

分類 番号	団体名	事業名等	場 所
	代表者名		実施時期
11	合唱団「萩」	『日本・スウェーデン国交150周年 記念コンサート』 被災地合唱団として、音楽を通して国際親善に 貢献してきた合唱団「萩」が、日本・スウェーデン 国交150周年を祝う記念コンサートに招かれ、東 北の歌声を披露する。	ベルワルドホール (ストックホルム)
	幹事 赤崎 宏雄		11/30、12/1
15	佐取純子 モダンバレエスタジオ	『創作舞踊「心の伏流水」』 東日本大震災後の社会を踏まえ、河北新報社が 東北の風土や心性に迫り、新聞協会賞を受賞し た連載企画「こころの伏流水北の祈り」から着想を 得て、モダンバレエと演劇、日本舞踊のコラボ レーションで独創的な創作舞踊公演を目指す。	宮城野区 文化センター
	代表 佐取 純子		7/29
16	公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団 (宮城野区文化センター)	『宮城野区文化センター 「室内楽セレクションMusic from PaToNa」』 全国的に珍しい地方都市における室内楽の本格的 な演奏会シリーズを実施。演奏会だけではなく、 オープンゼミナール等関連事業を展開すること により、仙台はもとより東北の音楽文化向上につ なげたい。	宮城野区 文化センター
	理事長 伊藤 行政		4/26～2/28
17	帯広コンテンポラリー アート実行委員会	『帯広コンテンポラリーアート2018「河口」展』 参加作家が個別に選んだ河口で自由な表現を 行い、その記録を事務局が集約してインターネッ トで随時配信する。一堂に集まる特定の会場を持 たない形式が、美術表現と発表形態の新たな発 展に貢献するものと考える。	4月～3月 (アートキャンプ:8月)
	実行委員長 吉野 隆幸		
18	公益社団法人 宮城県芸術協会	『第55回宮城県芸術祭』 宮城県、宮城県教育委員会、仙台市、仙台市教 育委員会、宮城県文化振興財団、河北新報社と 宮城県芸術協会の七団体共催で、宮城県の芸 術文化の振興発展に寄与することを目的とする。	せんだいメディア テーク他
	理事長 雫石 隆子		9月～3月
19	気仙沼演劇塾 うを座	『気仙沼演劇塾うを座20周年記念公演』 気仙沼演劇塾うを座20周年を記念し、元塾生から 成長した若いスタッフを中心に、これまでの主な 作品の印象に残る場面集を中心に構成した作品 を上演し、本格的に舞台公演活動を再開していく 転機としたい。	気仙沼市陣山 アーバンチャペル
	座長 鈴木 恒子		9/16
20	公益財団法人 盛岡市文化振興事業団	『第7回盛岡劇場「劇団モリオカ市民」 公演「MORIOKA CHRONICLE 岩手公園ものがたり」』 「盛岡」にこだわったテーマで、地元演劇人との協 働により盛岡でしかできない演劇を開催する。ま た、次世代の演劇人を育成することも視野に、盛 岡の演劇界の裾野を拡げることにも担う。演劇を気 軽に楽しんでもらう機会とする。	盛岡劇場
	理事長 三浦 宏		3/2～3
23	公益財団法人 仙台フィルハーモニー 管弦楽団	『仙台フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会 「マイタウンコンサート」(岩沼・栗原公演)』 事前アウトリーチとオーケストラ公演を組み合わせ て、仙台フィルが質の高い本物のオーケストラ音 楽の体験を提供する。オーケストラを身近に伝 え、その素晴らしさを届け、地域の一層の聴衆育 成と音楽文化の振興への確かな寄与を図る。	岩沼市民会館・ 栗原文化会館
	理事長 高橋 宏明		7月・8月

分類 番号	団体名	事業名等	場 所
	代表者名		実施時期
27	株式会社 寛松能	『第9回 能への誘い』 平成22年より開催している催し。演目の合間に解説を交え、初心者でも能楽を気軽に楽しめることを目的とする。また、仙台市内の小中学生を招待し、本物の伝統文化を体感する機会を提供している。さらに、外国人留学生も招待する。	日立システムズホール 仙台 (青年文化センター)
	代表 佐藤 寛泰		12/4
28	仙台短篇映画祭 実行委員会	『ショートピース！仙台短篇映画祭2018』 仙台で上映機会の少ない国内外の短篇映画や自主制作作品を上映する映画祭。監督、ゲストとの交流や地域の企業や団体と連携して、地域文化の振興を進める。震災後の仙台の映像文化や地域振興に寄与し復興への活力を提供したい。	せんだいメディア テーク
	実行委員長 内藤 有希		9/15～17
31	公益社団法人 東北障がい者 芸術支援機構	『第4回Art to You！ 東北障がい者芸術公募展』 障がいのある人々のアートに対する理解を広めることを主とし、芸術活動の支援を通して自己実現につなげ、新しさや楽しさを発見することで、それが生きがいとなり、社会で活躍できるフィールドを広げることを目指す。	せんだいメディア テーク
	代表理事 須佐 尚康		8/10～12
33	小森はるか+瀬尾夏美	『二重のまち/交代地のうたを編む』 陸前高田では新しい街を造る復興が進む一方、震災前後の暮らしの痕跡、死者を弔う場、体験を語る場が失われつつある。私たちはテキスト作品「二重のまち」を用いて、当事者性の濃淡を越えた震災の体験を継承する現場を作るため、作品制作及び上映会を実施する。	陸前高田市内、 仙台市内
	代表 瀬尾 夏美		9月～12月
35	大和町文化振興協会	『魅知国たいわ寄席』 日本の伝統文化として浸透している「落語」を、様々な世代の人に知ってもらうために毎年開催している。「落語女子」ブームの中、入場者には若年者もあり、実績として様々な世代の客より反響がある。	まほろばホール
	理事長 阿部 昭子		1/20
36	アートコミュニケーション 東北	『絵画鑑賞と対話を通じた介護予防と自立促進 プログラム』 絵画鑑賞とそれに基づいた自由対話を行うことにより、対象者の五感を刺激し、思考活動を活性化させ、介護予防や認知機能の低下・うつ状態の改善を図る活動で、今年度は高齢者や心身障がい者を対象に、10回程度実施する。	県内の美術館、介護施設、集会所等(未定)
	会長 土見 大介		年10回程度
37	公益財団法人 金沢芸術創造財団	『ヴェルディ「リゴレット」オペラ公演』 総合芸術といわれるオペラを地域で自主制作することにより、地方ではなかなか観ることができないオペラ公演の観賞機会を提供するとともに、地元のオーケストラ、音楽家、合唱団のレベルを上げ、更に舞台芸術の専門性の高い人材を育成する。	金沢歌劇座
	理事長 宮本 伸一		11/25
45	シネマ・デ・アエル プロジェクト	『シネマ・デ・アエル上映会』 常設映画館が閉館した宮古市で、旧家の蔵を活用した上映会を開催し、住民が質の高い映画作品に触れる機会を提供する。上映後の意見交換を通じて市民が文化・芸術を身近に感じ、交流する場も設ける。	特設シアター (宮古市)
	代表 有坂 民夫		4月～3月(計7回)
46	特定非営利活動法人 つくばアートセンター	『つくば国際アーティストインレジデンス 2018 周縁の美学』 アートと自然と人との共生を目指している。芸術活動を通して、国際交流と地域活性化を図ることを目的とする。現代アートと歴史と自然が融合する空間を作り出し、現代アートの素晴らしさを伝えることも目的とする。	つくば市ふれあいの里
	代表理事 篠原 光子		10/20～11/25